

| | |
|------------------|--|
| Title | 彫刻と色彩：彫刻概念の歴史的検証 |
| Sub Title | Sculpture and color |
| Author | 遠山, 公一(Toyama, Koichi) 渡部, 葉子(Watanabe, Yoko) 金井, 直(Kanai, Tadashi) 望月, 典子(Mochizuki, Noriko) 新倉, 慎右(Niikura, Shinsuke) 藤崎, 悠子(Fujisaki, Yuko) 小泉, 篤士(Koizumi, Atsushi) 徳永, 祐樹(Tokunaga, Yuki) 請田, 義人(Uketa, Yoshito) 大前, 美由希(Ohmae, Miyuki) |
| Publisher | |
| Publication year | 2024 |
| Jtitle | 科学研究費補助金研究成果報告書 (2023.) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | <p>本研究では、西洋彫刻における色彩の歴史的意義の変遷を検討する。現代においても一般的な彫刻概念を形づくるのは、古典主義時代に成立したブロンズや大理石におけるモノクロミーであると考えられる。しかしながら、古代から現代までの「彫刻」の歴史、および理論史を紐解くならば、彫刻のモノクローム性は限られた条件の中で成立したに過ぎないことが明らかになる。各時代における彫刻理論史・再現性・模倣理論・素材の象徴性・パラゴーネ(比較論)・古代彫刻の再評価史・テクノロジー発展による新たな素材の開発・彫刻をめぐる展示目的(戸外・屋内)および機能などを勘案して、彫刻観の歴史的変遷を検証する研究である。</p> <p>This study examines the evolution of the historical significance of color in Western sculpture. It is thought that it is monochromy in bronze and marble, established in the Classicist period, that shapes the general concept of sculpture even today. However, if we unravel the history of "sculpture" from ancient times to the present and the history of theory, it should become clear that monochromy in sculpture was established only under limited conditions. This research examines the evolution of the view of sculpture by considering the history of sculpture theory, reproducibility, mimetic theory, symbolism of materials, paragone (comparative theory), history of reevaluation of ancient sculpture, development of new materials due to technological development, purpose (outdoor/indoor) and function of exhibiting sculpture, and so on.</p> |
| Notes | 研究種目：基盤研究 (B) (一般) 研究期間：2020～2023 課題番号：20H01210 研究分野：西洋美術史 |
| Genre | Research Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_20H01210seika |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

令和 6 年 9 月 11 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01210

研究課題名（和文）彫刻と色彩 彫刻概念の歴史的検証

研究課題名（英文）Sculpture and Color

研究代表者

遠山 公一（TOYAMA, Koichi）

慶應義塾大学・文学部（三田）・教授

研究者番号：90227562

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、西洋彫刻における色彩の歴史的意義の変遷を検討する。現代においても一般的な彫刻概念を形づくるのは、古典主義時代に成立したブロンズや大理石におけるモノクロミーであると考えられる。しかしながら、古代から現代までの「彫刻」の歴史、および理論史を紐解くならば、彫刻のモノクローム性は限られた条件の中で成立したに過ぎないことが明らかになる。各時代における彫刻理論史・再現性・模倣理論・素材の象徴性・パラゴネ（比較論）・古代彫刻の再評価史・テクノロジー発展による新たな素材の開発・彫刻をめぐる展示目的（戸外・屋内）および機能などを勘案して、彫刻観の歴史的変遷を検証する研究である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

三次元の対象を三次元で表す物理的な存在としての「彫刻」とは何なのか、その価値はいずれに存するのか。そのような問いに対して、彫刻に色彩という項を立て歴史的な検証を試みた結果、無彩色の彫刻は、古典主義的価値観から再現性と観者への効果の点で彩色を重視した絵画に対する素描性・触覚性・抽象性といった独自の「彫刻性」の希求から生じたものだ結論づけることができる。また、他の時代により豊かな素材を用い、機能に即した表面が求められる古典主義以外の彫刻史から、存在論的な彫刻論とは別の彫刻の現象学とも呼べる彫刻論の可能性について考察することが出来たことが大きな意義である。

研究成果の概要（英文）：This study examines the evolution of the historical significance of color in Western sculpture. It is thought that it is monochromy in bronze and marble, established in the Classicist period, that shapes the general concept of sculpture even today. However, if we unravel the history of "sculpture" from ancient times to the present and the history of theory, it should become clear that monochromy in sculpture was established only under limited conditions. This research examines the evolution of the view of sculpture by considering the history of sculpture theory, reproducibility, mimetic theory, symbolism of materials, paragone (comparative theory), history of reevaluation of ancient sculpture, development of new materials due to technological development, purpose (outdoor/indoor) and function of exhibiting sculpture, and so on.

研究分野：西洋美術史

キーワード：彫刻 彩色 多彩色 ポリクロミー モノクローム 古典主義 パラゴネ 型押し

1. 研究開始当初の背景

かつて研究代表者はルカ・デラ・ロツピアを修士論文のテーマとして選択し、その施釉テラコッタ彫刻の表面がもつ色彩と光沢について何度となく授業で取り上げ、論文を執筆してきた。また、執筆した台座論および台座をテーマとした展覧会企画から、彫刻の提示の仕方やその効果についての知見を集めてきた。

美術史において彫刻は絵画と比べたならば、マイナーな分野といえるだろう。それでも、古代・中世・近世初期の彫刻の修復、その修復をめぐる展示・展覧会、また近現代における彫刻をめぐる制度論や多くの展覧会を通して、彫刻と色彩をめぐる問題意識は十分に高まってきていたと認識している(小田原のどか氏の評論、戸田祐介編『べらべらの彫刻』など)。したがって、多くの彫刻論を公にしてきている研究者を分担者とし、それに加えて博士課程や就職したばかりの新進の研究者を協力者に迎え、総合的な彫刻研究を行う期が熟してきていた。とはいえ、研究開始当初は、まさに新型コロナウイルス感染症の蔓延が始まった時期に相当し、彫刻という物理的存在を扱うことの難しさを全ての参加者が実感したはずである。

2. 研究の目的

本研究で問う西洋彫刻における色彩とは、ポリクローム彩色及び素材自体のもつモノクローム性をも含む。その際、古典主義以前(中世-15世紀初期ルネサンス)・古典主義(近世16-18世紀)・古典主義以後(近現代19-20世紀)という歴史的枠組みを想定し、古典主義が彫刻素材として偏愛したブロンズの漆黒および大理石の白亜など、彫刻の素材自体のモノクロミーを重視した彫刻観の成立の過程及び展開、古典主義以前における彫刻の実態と成立以後における様々な素材における彩色の有無および多様性を尋ねることによって、彫刻における賦彩の意味、実態、その方法および目的を素材ごとに検討し、それぞれの時代の彫刻観を問う。それによって、特に中世においては素材のシンボリズム、および立体物の機能(室内・戸外など)に応じた表面の処理が問題となることを浮彫にしたい。盛期ルネサンスから古典主義時代においては、もっぱらパラゴネ(諸芸術の比較論)を通じて、彫刻のモノクローム性が絵画と差別化するために不可欠な議論と実践であったこと、また高級な芸術と民衆的な芸術との差別化がアカデミックな「彫刻性」の議論に影響を与えたことなどに注目したい。さらに近代においては、新たな「真の」古代の再評価に基づく「彫刻」概念の見直しとその拡大および伝統化した従来への価値観に基づく審美感からの抵抗を明らかにしたい。以上の歴史的な見直し作業を通じて、最終的には「彫刻」概念そのものを考察の俎上に載せることを目的とする。

3. 研究の方法

当初から、当研究の方法論としては、1)理論研究、2)作品研究、3)素材の研究を3本の柱とした。

1)理論研究:

彫刻論の読解など文字史料の研究である。特に歴史的な一次資料としてそれぞれの時代の重要な彫刻論の研究となる。例としては、古代のプリニウス、パウサニアス、中世のシュジェールや、15世紀のチェンニーニ、アルベルティ、ギベルティ、16世紀のガウリコ、ヴァザーリ、フェデリコ・ズッカリ、パラゴネの諸議論、17-18世紀のアカデミズムにおけるル・ブラン、フェリピアン、ロジェ・ド・ピール、ヴィンケルマン、ヘルダー、19世紀以降は古代美術における色彩の見直しを図ったカトメール・ド・カンシー、ルイ・クラジョ、20世紀のシュロツサーやヴァールブルク、マイケル・フリードなどのテキストの読解を通じ、過去の時代の再評価や同時代の作家との関係を主に論じることになる。また、彫刻論の読解を通じて、彫刻の彩色や型取りについての歴史的な検証を行う。

2)作品研究:

作例を実見・実地調査、文献調査、さらに各専門家との意見交換を行う。理論研究を実際の作品の実態と照らし合わせる試みでもある。理論書がアカデミックな知識人の間だけの意見である可能性もあり、実際の作品調査との乖離が問題となるかもしれないからである。特に15-16世紀の彩色および施釉テラコッタの研究では、施釉テラコッタのデラ・ロツピア研究の第一人者であるジャンカルロ・ジェンティリーニ教授をお呼びし、講演を行って頂き、意見交換の重要な機会とする。また、ル・ブランが称賛したズンボの蠟彫刻、新古典主義彫刻家アントーニオ・カノーヴァとジョン・ギブソン、リール美術館の《蠟型頭部像》さらに20世紀から今日までのハイパー・リアリズムの作品調査も含まれる。

3)素材の研究:

当研究で「彫刻と色彩」といったならば、彫刻の素材自体の色彩も含む意味で素材が重要であるが、それと同時に素材が金属が大理石といったいわば「高級な」素材であるのか、土や木材といったいわば「低級な」素材であるのか、またガラスやグラスファイバ

ーのような可塑性の高い素材であるのかという区別が、賦彩の有無、賦彩の方法、彫刻の展示の方法などに密接に関わってくる意味でも重要である。したがって、素材の検証が必要であると認識される。とはいえ、一般的な知識以上にこの部分を精査するためには、科学分析をする修復家や専門家の助けが必要になってくる。デラ・ロツピアにおける施釉を分析したい。

以上の研究方法はしかし、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響が甚大であった。特に2)と3)である。海外に在住する研究協力者(藤崎悠子)および元ペルーシア大学教授のジャンカルロ・ジェンティリーニ氏の協力が極めて貴重にして有効であった。

4. 研究成果

三次元造形物である「彫刻」と彩色の問題を歴史的に検討した。その結果、彫刻への彩色は15世紀末-16世紀初頭までは、積極的に行われたが、パラゴネを経て古典主義的な彫刻観が確立されていくと、色彩が「彫刻」から駆逐されたことが確認された。しかしながら、さらにその無彩色の彫刻がアカデミーにおいて絵画と比較して明確に劣勢に立たされる18世紀からは、彫刻への色彩の再導入が始まる。この動きには、古代遺物の再発見による古代彫刻についての見解の相違が複雑に反映されることも、重要な検討課題であった。研究はさらに現代のハイパー・リアリズムにおける現実の完全な模倣にまで及び、それによって彫刻と色彩の問題について、より精緻かつ歴史的に論じることが可能になった。

作成した研究成果報告書の中に載る9本の論文を以下に列挙する。

- 第1章 小泉篤士「19世紀後半におけるタナグラ人形の再発見と古代彫刻観の刷新」
- 第2章 徳永祐樹「ベアトゥス写本における色彩」
- 第3章 遠山公一「15世紀における彫刻の表面への関心：ルカ・デッラ・ロツピアとロレンツォ・ギベルティ」
- 第4章 藤崎悠子「ガイド・マツォーニとアントニオ・ペガレッリ
ルネサンス期のエミリア地方の『キリスト哀悼』群像表現における彩色の問題」
- 第5章 新倉慎右「ルネサンスにおける彫刻の色彩の喪失」
- 第6章 望月典子『17世紀フランスにおける彫刻と色彩について試論
一口ジェ・ド・ピールによるズンボの着色彫刻の評価を中心に一』
- 第7章 金井直「色のディコトミーカノーヴァとギブソンの彫刻をめぐる一」
- 第8章 請田義人「19世紀後半におけるポリクロミー再評価
ールイ・クラジヨの言説を中心に一」
- 第9章 大前美由希「リアリズムと色彩ードウエイン・ハンソンにおける彩色の意義」
講演記録(和訳：藤崎悠子)
- 第10章 ジャンカルロ・ジェンティリーニ「初期ルネサンスのフィレンツェ彫刻における素材、色彩、光
ドナテッロからデッラ・ロツピア一族へ」

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 遠山公一 | 4. 巻 24 |
| 2. 論文標題 サーノ・ディ・ピエトロ研究現状ー; ‘マエストロ・デッロセルヴァンツァ’ 問題の解消 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 芸術学 | 6. 最初と最後の頁 44-62 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 望月典子 | 4. 巻 149 |
| 2. 論文標題 ブッサンとラファエロ システィーナ礼拝堂用 使徒言行録 連作タピスリーの受容を中心に | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 哲学 | 6. 最初と最後の頁 85-117 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 望月典子 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 The Exegetical Meaning of Nicolas Poussin 's Christ Healing the Blind (The Blind of Jericho) | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 BIGAKU (The Japanese Journal of Aesthetics in Western Language) | 6. 最初と最後の頁 1-16 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名 金井直 | 4. 巻 9 |
| 2. 論文標題 《カノーヴァの墓》(1827年)をめぐって | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 信州大学人文科学論集 | 6. 最初と最後の頁 1-19 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 新倉慎右 | 4. 巻 28 |
| 2. 論文標題 Zum Berliner WachsmodeII Herkules und Kakus Baccio Bandinellis: Seine Ueberlegung zur Vielansichtigkeit' | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Keio University Art Center Annual Report/ Bulletin | 6. 最初と最後の頁 143-157 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 新倉慎右 | 4. 巻 52 |
| 2. 論文標題 ミケランジェロの群像彫刻作品における多視点性 複数の多視点性と「全視点」彫刻への到達 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 武蔵野美術大学研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 85-98 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 遠山公一 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 L'ombra e le reliquie: il caso dell'effigie del beato Bernardino dipinta da Pietro di Giovanni d'Ambrogio nella Pinacoteca Nazionale di Siena | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Iconographica: Studies in the History of Images | 6. 最初と最後の頁 91-105 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 藤崎悠子・松本隆・飯塚義之 | 4. 巻 51 |
| 2. 論文標題 ロツビア工房による施釉テラコッタ彫刻の制作技法研究：ルネサンス期の彫刻断片の総合的分析 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 武蔵野美術大学研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 85-98 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 新倉慎右 | 4. 巻 37 |
| 2. 論文標題 ミケランジェロ作《ヘラクレスとカクス》における多視点性の創出 素描《ヘラクレスとアンタイオス》からの発展と設置場所との関係 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 鹿島美術研究 年報別冊 | 6. 最初と最後の頁 382-393 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 新倉慎右 | 4. 巻 27 |
| 2. 論文標題 Verschiedene Aspekte der Vielansichtigkeit: eine Fallstudie ueber die Ansichtigkeit bei Michelangelos Skulpturen | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Keio University Art Center Annual Report/ Bulletin | 6. 最初と最後の頁 183-201 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 望月典子 | 4. 巻 24 |
| 2. 論文標題 一七世紀フランスにおける彫刻と色彩についての試論 ロジェ・ド・ピールによるズンボの着色蠟彫刻の評価を中心に | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 芸術学 | 6. 最初と最後の頁 170-188 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 金井直 | 4. 巻 11(2) |
| 2. 論文標題 大熊氏廣とジュリオ・モンテヴェルデ | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 信州大学人文科学論集 | 6. 最初と最後の頁 1-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 金井直 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 ポテロの彫刻 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 展覧会図録『ポテロ展 ふくよかな魔法』 | 6. 最初と最後の頁 157-160 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 金井直 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 ジルベルト・ゾリオ : 言葉の開くこと、言葉を開くこと | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 展覧会図録『コレクション企画 梓と波』 | 6. 最初と最後の頁 21-25 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 望月典子 | 4. 巻 196 |
| 2. 論文標題 セバスティアン・ブルドン 慈悲の七つの行い 連作: プロテスタンティズムと一七世紀フランス宗教画 | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 美術史 | 6. 最初と最後の頁 210-226 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|------------------|
| 1. 著者名 望月典子 | 4. 巻 264 |
| 2. 論文標題 一七世紀フランス宗教画とgrace の概念: アンドレ・フェリピアン の美術批評をめぐって | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 美学 | 6. 最初と最後の頁 未定 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 徳永祐樹 | 4. 巻 39 |
| 2. 論文標題 聖堂建築における形式と意味の伝播：13世紀のサン=ドニ修道院付属聖堂改築を中心に | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 鹿島美術財団年報別冊 | 6. 最初と最後の頁 251-259 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 小泉篤士 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 19世紀後半におけるタナグラ人形の再発見と古代彫刻観の刷新 | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究（B）彫刻と色彩―彫刻概念の歴史的検証 成果報告書 | 6. 最初と最後の頁 6-11 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 徳永祐樹 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 ベアトゥス写本における色彩 | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究（B）彫刻と色彩―彫刻概念の歴史的検証 成果報告書 | 6. 最初と最後の頁 12-15 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 藤崎悠子 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 ガイド・マツォーニとアントニオ・ベガレリールネサンス期エミリア地方の「キリスト哀悼」群像表現における彩色の問題― | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究（B）彫刻と色彩―彫刻概念の歴史的検証 成果報告書 | 6. 最初と最後の頁 24-35 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 新倉慎右 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 ルネサンスにおける彫刻の色彩の喪失ー古典主義彫刻成立期のパラゴーネの影響及びミケランジェロとの関係ー | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(B) 彫刻と色彩ー彫刻概念の歴史的検証 成果報告書 | 6. 最初と最後の頁 36-43 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 望月典子 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 17世紀フランスにおける彫刻と色彩についての試論ーロジェ・ド・ピールによるズンボの着色蠟彫刻の評価を中心にー | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(B) 彫刻と色彩ー彫刻概念の歴史的検証 成果報告書 | 6. 最初と最後の頁 44-51 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 金井直 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 色のディコトミーーカノーヴァとギブソンの彫刻をめぐるー | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(B) 彫刻と色彩ー彫刻概念の歴史的検証 成果報告書 | 6. 最初と最後の頁 52-58 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 請田義人 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 19世紀後半におけるポリクロミー再評価ールイ・クラジヨの言説を中心にー | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(B) 彫刻と色彩ー彫刻概念の歴史的検証 成果報告書 | 6. 最初と最後の頁 60-66 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 大前美由希 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 リアリズムと色彩ードゥエイン・ハンソンにおける彩色の意義ー | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(B) 彫刻と色彩ー彫刻概念の歴史的検証 成果報告書 | 6. 最初と最後の頁 68-73 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 [講演録]ジャンカルロ・ジェンティリーニ(訳:藤崎悠子) | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 初期ルネサンスのフィレンツェ彫刻における素材、色彩、光ードナテッロからデッラ・ロッチアー族へー | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(B) 彫刻と色彩ー彫刻概念の歴史的検証 成果報告書 | 6. 最初と最後の頁 74-87 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 新倉慎右 | 4. 巻 30 |
| 2. 論文標題 ヴァザーリの『列伝』における彫刻家のモデル制作に関する記述について | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 慶應義塾大学アート・センター年報 / 研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 166-169 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 遠山公一 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 15世紀における彫刻の表面への関心ーールカ・デッラ・ロッチアーとロレンツォ・ギベルティー | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(B) 彫刻と色彩ー彫刻概念の歴史的検証 成果報告書 | 6. 最初と最後の頁 16-23 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 0件）

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 遠山公一 |
| 2. 発表標題 イタリア・ルネサンスにおける陰影 |
| 3. 学会等名 公益財団法人鹿島美術財団（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 望月典子 |
| 2. 発表標題 ブッサンとラファエッロ フランスにおけるラファエッロ主義の形成、シ スティーナ礼拝堂用使徒言行録連作タピスリーの受容を中心に |
| 3. 学会等名 ラファエッロ没後500 年記念シンポジウム『ラファエッロとラファエッロ主義』美術史学会東支部大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 藤崎悠子 |
| 2. 発表標題 ルネサンスのイタリアにおける「キリスト哀悼」彫刻群像表現の研究 |
| 3. 学会等名 公益財団法人 鹿島美術財団 財団賞授賞式・研究発表会（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 請田義人 |
| 2. 発表標題 宝物のいれもの / いれものとしての宝物：19世紀フランスのいくつかの例をもとに |
| 3. 学会等名 収納・収蔵の比較美術史、研究集会 東京大学美術史学研究室主催 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 請田義人 |
| 2. 発表標題 聖人の死と復活をめぐる2つの表象 - 1830年の聖遺物奉還に際して制作された聖ヴァンサン・ド・ポールの全身像と銀製聖遺物容器について |
| 3. 学会等名 日仏美術学会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 望月典子 |
| 2. 発表標題 ルイ14世時代のヴェルサイユ宮殿と古代 |
| 3. 学会等名 アーティゾン美術館土曜講座 地中海学会連続講演会「蘇生する古代」第4回（招待講演） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 望月典子 |
| 2. 発表標題 17世紀フランス宗教画とgrace の概念ーアンドレ・フェリピアン美術批評をめぐって |
| 3. 学会等名 第74回美学会全国大会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 新倉慎右 |
| 2. 発表標題 ミケランジェロ作《ヘラクレスとカクス》における多視点性の創出ー素描《ヘラクレスとアンタイオス》からの発展と設置場所との関係ー |
| 3. 学会等名 第28回鹿島美術財団賞研究発表会（招待講演） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 新倉慎右 |
| 2. 発表標題 私たちは世界をどうみているのか？ーアートを通して考える |
| 3. 学会等名 2023年度慶應義塾大学文学部公開講座：越境する文学部（招待講演） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 新倉慎右 |
| 2. 発表標題 ミケランジェロの初期作品における「多視点性」ーールネサンス期彫刻の視点の捉え方との関わりからー |
| 3. 学会等名 2023年度第3回美術史学会東支部例会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 請田義人 |
| 2. 発表標題 アレクサンドル・ファルギエール（1831-1900）の造形観 |
| 3. 学会等名 第30回鹿島美術財団賞研究発表会（招待講演） |
| 4. 発表年 2024年 |

〔図書〕 計12件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 渡部葉子、橋本まゆ、桐島美帆、山田桂子、本間友、長谷川紫穂、嶋田和、黒川弘毅、高橋裕二、宮崎安章、佐藤小百合 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 慶應義塾大学アートセンター | 5. 総ページ数 160 |
| 3. 書名 [記録集]我に触れよ(Tangite me):コロナ時代に修復を考える | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 池野絢子、大槻とも恵、小田原のどか、金井直、小松理虔、近藤学、坂井剛史、鈴木一平、津田大介、筒井宏樹、七搦綾乃、森佳三 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 書肆九十九 | 5. 総ページ数 608 |
| 3. 書名 彫刻2 彫刻、死語 / 新しい彫刻 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 池上 俊一、藤崎悠子、岡本源太、足達薫、宮下規久朗、川上恵理、白幡俊輔、岡北一孝、桑木野幸司、伊藤亜紀、徳橋曜、伊藤博明、石井元章、池上英洋、松本典昭、藤内哲也、石鍋真澄 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 名古屋大学出版会 | 5. 総ページ数 524 |
| 3. 書名 原典 イタリア・ルネサンス芸術論 上 | |

| | |
|------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 河口龍夫、渡部葉子 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 慶應義塾大学アート・センター | 5. 総ページ数 40 |
| 3. 書名 Artist Voice I : 河口龍夫 無呼吸 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 橋本善八、菅谷富夫、嶋田美子、西澤晴美、本間友、光田由里、渡部葉子 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 特定非営利団体 Japan Culture Research Institute | 5. 総ページ数 64 |
| 3. 書名 Archiveをかんがえる | |

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 河口龍夫、渡部葉子 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 慶應義塾大学アート・センター | 5. 総ページ数 96 |
| 3. 書名 河口龍夫 鯉呼吸する視線 [記録集] | |

| | |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 大村理恵子、徳永祐樹、吉田和佳奈、松岡佳世、酒井由紀子 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 キュレーターズ | 5. 総ページ数 192 |
| 3. 書名 サーリネンとフィンランドの美しい建築 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 新倉慎右 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 慶應義塾大学アート・センター | 5. 総ページ数 29 |
| 3. 書名 Artist Voice II: 有元利夫 うたのうまれるところ | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 吉岡洋 岡田温司 津上英輔 青木孝夫 小田部胤久 加須屋明子 加須屋誠 加藤哲弘 木村建哉 樋笠勝士 前川修 室井尚 吉田寛 渡辺裕 青田麻未 上尾信也 秋庭史典 秋山聡 朝山奈津子 金井直他 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 丸善出版 | 5. 総ページ数 768 |
| 3. 書名 美学の事典 | |

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 望月典子 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 慶應義塾大学出版会 | 5. 総ページ数 102 |
| 3. 書名 タブローの「物語」：フランス近世絵画史入門 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 金山弘昌、金井 直、木村 太郎、太田智子、佐藤 仁、新保 淳乃 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 ありな書房 | 5. 総ページ数 352 |
| 3. 書名 天空のアルストピア | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 木村三郎 望月 典子 栗田秀法 新畑泰秀 安室可奈子 小林亜起子 中島智章 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 中央公論美術出版 | 5. 総ページ数 260 |
| 3. 書名 新古典主義美術の系譜 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| <p>【成果報告書】 遠山公一監修『文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究（B）彫刻と色彩——彫刻概念の歴史的検証 成果報告書』2024年、全88頁。</p> |
|---|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|---------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 渡部 葉子 (Watanabe York) (00439225) | 慶應義塾大学・アート・センター(三田)・教授 (32612) | |
| 研究分担者 | 金井 直 (Kanai Tadashi) (10456494) | 信州大学・学術研究院人文科学系・教授 (13601) | |
| 研究分担者 | 望月 典子 (Mochizuki Noriko) (40449020) | 慶應義塾大学・文学部(三田)・教授 (32612) | |

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|-----------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 新倉 慎右 (Niikura Shinsuke) | | |
| 研究協力者 | 藤崎 悠子 (Fujisaki Yuko) | | |
| 研究協力者 | 小泉 篤士 (Koizumi Atsushi) | | |
| 研究協力者 | 徳永 祐樹 (Tokunaga Yuki) | | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 請田 義人 (Uketa Yoshito) | | |
| 研究協力者 | 大前 美由希 (Ohmae Miyuki) | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

| | | |
|--|-----------|--------------------|
| 国際研究集会 初期ルネサンスのフィレンツェ彫刻における素材、色彩、光 ラ・ロッチャー族へ | ドナテッロからデッ | 開催年 2023年～2023年 |
|--|-----------|--------------------|

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | |
|---------|---------|-------------------|---------|
| イタリア | ペルージャ大学 | グッピオ美術史文化財専門家育成過程 | 近世美術史専攻 |